

「未来の土木コンテスト」が開催

昨年十二月二十日、日本科学未来館（東京都江東区）において、「未来の土木コンテスト」最終選考会・表彰式が開催された。同コンテストは、主催する（公社）土木学会が全国の小学生を対象に「土木がかなえる未来の社会」のアイ



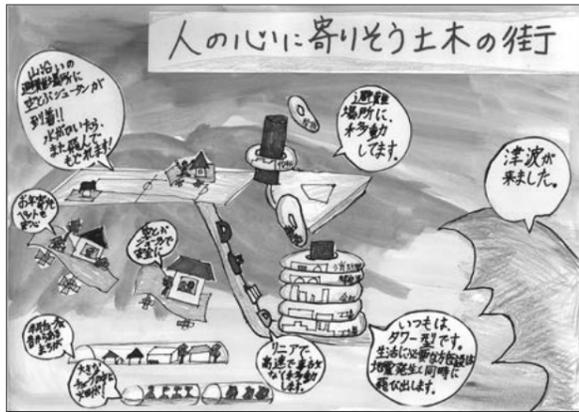
最優秀賞 チーム遠藤 「遊びと笑顔で発電公園」

未来プランナー：遠藤萌花（小学6年生）
土木エンジニア：伊藤正憲（東急建設）、浦川洋介（オリエンタル白石）、原田尚幸（銭高組）、關藤果（竹中土木）、宇津木浩行（東鉄工業）、秋山哲治（若築建設）

デアを募集、日建連土木工事技術委員会の委員が夢の社会実現のため全面的に協力した。最終選考に残った五作品について、作品ごとに未来プランナーである子供たちと現役の土木エンジニアがチームを結成し、多くの時間をかけてアイデアの実現に向けて真剣に考えた。

最終選考会では、五チームがそれぞれ七分間、大変熱のこもったプレゼンテーションを行い、審査員に対してアイデアの素晴らしさと実現する可能性をアピールした。

厳正な審査の結果、最優秀賞にはチーム遠藤の『遊びと笑顔で発電公園』が選出された。このアイデアは、東日本大震災を経験した未来プランナーの遠藤萌花さんが、「自分たち子どもでも電気をつくるのができないだろうか」という想いで考え出したもの。土木エンジニアたちは、日本全国の公園の滑り台やブランコに発電機を取り付けたり、公園で遊ぶ子供たちの声を集めて音声発電をおこすことで、被災地に送電することなどを考案した。今後の技術革新を

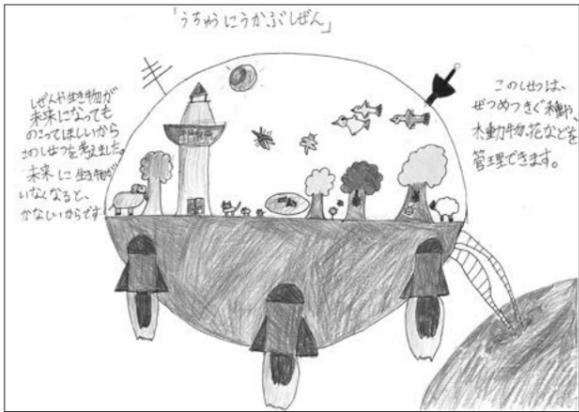


優秀賞 チーム秋山 「人の心に寄りそう土木の街」

未来プランナー：秋山隆蔵（小学6年生）
土木エンジニア：古市耕輔（鹿島建設）、渋谷重彦（東急建設）、福本正（西松建設）、磯上晃一（奥村組）、石澤秀文（五洋建設）、小島文寛（東急建設）

見据え、将来的に二万八、〇〇〇人分の電気を提供できる点が高い評価を得た。

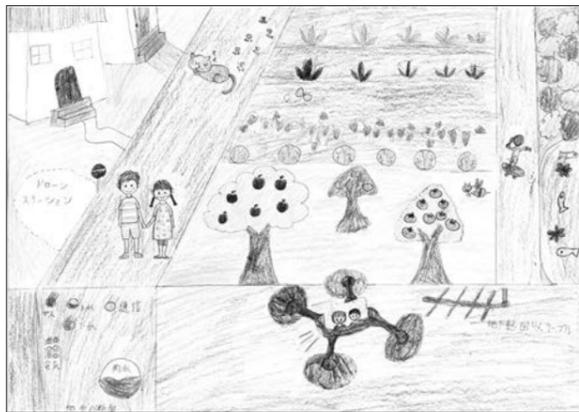
優秀賞四作品のうち、チーム秋山の『人の心に寄りそう土木の街』は、未来プランナーが大震災の津波を経験したことから、災害時には街ごと逃げて、そしてすぐに戻ることができる街を目指し、住宅を磁力で浮かせてドローンでの移動等を発案。チーム島児の『うちゅうにうかぶしぜん』は、温暖化による地球上の生物滅亡を阻止するため、現代版ノアの箱舟を模したカプセルを宇宙空間に浮かべること考えた。また、チーム田中の『道路のなくなった町』は、移動手段をドローンに移行し、道路をなくすことで生まれた土地を畑や果樹園、林に変えていく発想だ。チーム安江の『雷電池を使った未来の町』は、避雷針などで雷の電気エネルギーを蓄え、超電導金属による電気抵抗のない送電網をつくりあげて、化石燃料に頼らない世界を実現するというもの。特別選考委員の毛利衛日本科学未来館館長は「それぞれの作品に特徴があり甲乙つけ難く、すべてに最優秀賞を授けたい気持ち。次回のコンテストを非常に楽しみにしている」と挨拶した。



優秀賞 チーム島児 「うちゅうにうかぶしぜん」

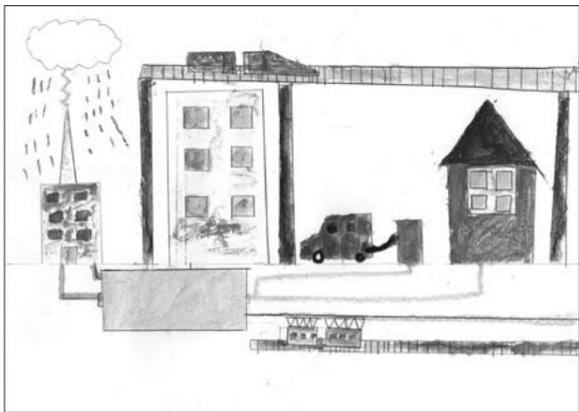
未来プランナー：島児明留（小学4年生）
土木エンジニア：今石尚（大成建設）、佐藤郁（戸田建設）、河越勝（熊谷組）、杉浦伸哉（大林組）、原島誠（飛鳥建設）、和田卓也（鹿島建設）、秀島康史（竹中土木）、海野円（大成建設）、一藤雪乃（戸田建設）

コンテストの終了後、ある未来プランナーは小学校の全体朝礼で表彰され、また、居住の自治体からも表彰を受けたと聞く。子供たちにとって、土木エンジニアとのコラボレーションは貴重な体験として、大切な思い出となったはずだ。



優秀賞 チーム田中 「道路のなくなった町」

未来プランナー：田中楓里（小学6年生）
土木エンジニア：岩永克也（西松建設）、植木貴幸（奥村組）、坂本守（鹿島建設）、小島英郷（清水建設）、山根信幸（東亜建設工業）、橋本純（清水建設）、永山智之（西松建設）



優秀賞 チーム安江 「雷電池を使った未来の町」

未来プランナー：安江竣（小学5年生）
土木エンジニア：春日昭夫（三井住友建設）、関本恒浩（五洋建設）、杉山律（安藤・間）、新村亮（大林組）、安藤慎一郎（竹中土木）、服部尚道（東急建設）、山岸真理（安藤・間）



参加者の集合写真